

平成 19 年新潟県中越沖地震

被災文集

“その日、そのとき”

平成 19 年 11 月

国立病院臨床検査技師協会関信支部
新潟地区会

巻頭言

平成 19 年 7 月 16 日午前 10 時 13 分、柏崎市周辺が震度 6 強の地震で揺れた。震源は新潟県柏崎市沿岸に近い日本海の海底で、深さは約 17 キロ、地震の規模を示すマグニチュード(M)は 6.8。この地震で震度 6 強を記録した地域は長岡市、柏崎市、刈羽村、長野県飯綱町、震度 6 弱は上越市、小千谷市、出雲崎町であった。震度 5 強は三条市、十日町市、南魚沼市、燕市、長野県中野市、飯山市、信濃町で、震度 5 弱は新潟市などの下越地方や長野市、能登半島地域であった。今回の地震は地面の浅いところにある断層がずれて起きる「直下型」で、3 年前の新潟県中越地震と似たタイプである。今回の震源は海域のため、断層があることは知られていなかった。

この地震では、地震関連死も含めて 14 名（10 月末現在）の方が亡くなり、負傷者は 2 千名近くに達した。また住宅の被害も甚大で 1 千戸以上の家屋が全壊、一部損壊の家屋は 2 万 5 千戸以上を数えた。道路や鉄道もいたるところで寸断され、JR 信越線柏崎－柿崎間は約 2 ヶ月間も不通となった。地域によっては、ライフラインの復旧が手間取り、被災者は 1 ヶ月以上不自由な生活を強いられたが、地震直後 100 箇所以上設置された避難所も仮設住宅の完成に伴い 9 月に入りすべて閉鎖された。

平成 16 年 10 月 23 日の中越地震から 3 年も経たないうちのこの大震災。誰もがもうしばらくは来ないだろうと思っていた震災が柏崎で起こってしまった。私たち新潟地区会の仲間の多くが自宅の損壊とその後の不自由な生活や交通事情の悪化など大きな被害を受けた。また被災地柏崎の新潟病院も被災した。ただ幸いにも仲間達の人的被害は免れ、数日後には元気に職場へ復帰できた。

地区会理事会でこの地震のことを語り合う中で、私たちにとって未曾有で稀有なこの体験を残したいと考えた。時間の経過とともに記憶はきっと薄れていくだろうし、仲間達もお互いに地震のことを話したいし聞きたいだろう。“記憶を記録に”残そう！と決めて仲間たちにお願いをした。そしてこの文集が出来上がった。仲間達の協力に感謝あるのみである。

平成 19 年 11 月

国臨協 関信支部 新潟地区会 中島 治

平成 19 年 10 月 1 日

新潟地区会 会員各位

国臨協関信支部新潟地区会
会長 中島 治

平成 19 年新潟県中越沖地震被災文集（仮題）発行と原稿のお願いについて

猛暑の夏も 10 月の声を聞いてようやくおさまり、急転直下で秋に突入したように感じています
が、新潟地区会の皆様にはご清祥にてご活躍のことと拝察いたします。

さて、今年 7 月 16 日に柏崎を中心に発生した中越沖地震から 2 ヶ月半、被災地の復旧もかなり
進んできていますが、被災者の多くはまだまだ苦難の生活を強いられているようです。特に今回の
地震では、柏崎在住の会員の皆様が自宅にかなりの被害を蒙り、ライフラインの復旧がままならな
い中、大変なご苦勞をされてきたことと思われます。また耐震強化工事がまもなく終わろうとして
いた新潟病院も、その施設にかなりのダメージを受け、改めて復旧工事を行わねばならなくなっ
ています。

そんな困難な状況の中、3 年前の中越地震後に始まったエコノミークラス症候群予防検診活動が
地震発生直後から開始され、被災され自宅のかたづけに忙しい会員も含め、多くの会員がボラン
ティアとして参加され活躍されました。

新潟地区会では先月の地区会理事会において、この地震についての様々な情報を交換し、各々が
あまり知らなかった経験や状況、人それぞれの苦勞が多いことを思い知らされました。話し合った
結果、このような稀有な経験や、被災しての教訓を何ら形で記録として残しておくべきだと考え、
被災文集を作成することとしました。

つきましては会員の皆様に、当日の経験や教訓、復旧のご苦勞などどんなことでもかまいません
ので、地震にあって感じたことをテーマに下記の要領で原稿を書いていただきたいと思います。内
容や字数など一切制限はありません。また直接被災をしていなくても、地震当日の感想や被災地へ
の想い、中越地震と今回の地震と関連したことなど書いてくだされば有難いと思います。

皆様には、公私にわたりお忙しい中とは思いますが、是非ともすべての会員のご協力をいただ
けますようお願いいたします。

記

原 稿：Word や一太郎などのファイルの形でお願いします。写真も大歓迎です。

送 り 先：各施設の地区会理事の方へファイルをお渡してください。

期 限：とりあえず 10 月末としますが、できれば早めをお願いします。

完成予定：11 月 3 日の地区会総会を目標にしています。

以上

その日、そのとき

中越沖地震の思いで

さいがた病院 A. Y.

新潟県中越沖地震と名付けられた柏崎市、刈羽村を襲った地震、あのとき私は何をし、どんな行動をとったか、記憶を思い起こすために気象庁の地震記録を調べてみた。記録によると2007年7月16日10時13分、新潟県柏崎沖海底深さ17Kmので発生したM6.8最大震度6強の地震であったと記録されていた。最初ガタガタとくる小刻みな前兆の振動に、その3年前に小千谷市、山古志村、長岡地区を襲った中越地震の時の揺れを咄嗟に思い起こし、これはでかい揺れがくると直感的に判断した。とにかく不安定な本棚を押さえる行動をとった。予想通り小刻みな振動から家全体がぎしぎしと音を立てて揺れる大きな揺れに変わり数分間大きな横揺れが続いた。揺れがようやく収まると近隣の家の人達も結構大きな揺れに驚き外に飛び出してきた、とりあえず我が家は無事そうであったので年老いた両親が住む実家に連絡すると何とか無事とのこと、近くに在住の義務、職場へ急行する事にした。発生から十数分も経た頃であっただろうか。折良く当日我が検査科の副技師長が日直で勤務しており、私が到着すると生理検査室の天井からの水漏れと奮闘中であつた。私も最初は天井の水道管配管でもはずれての水漏れと思い器機の避難、あったけのバケツ、トレイによる雨だれ受けを行い機関場に連絡、天井を一枚はぐつてのぞいてもらったが、配管には特に異常はないとのこと、直上階の病理の部屋をのぞいてみると器具洗浄用につながるホースがはずれて水が噴出していることが判明、水びたし状態の部屋の床を拭いていると程なく長沢、平原、両君も駆けつけてくれた。こういうときの床面の水は、雑巾とかでは

効果無く、ちりとりですくい取るようにしてバケツに集める、そのやり方が一番手っ取り早く、効果的であることを改めて体感した。病院はその程度の被害で一段落、年老いた両親の住む実家が心配で様子を見に行ってみると、仏壇はひっくり返るわ、壁は一部崩落するわ、で結構な被害で驚いた。でも90才の母と87才の父が何とか、片づけをやっていてくれていた、親不孝を心でわびながらも我が家に戻ってみると、気がつかなかった被害があちこちで起こっていた。二階の私の書籍のほとんどが本棚が倒れ部屋の中が足の踏み場もない状態、タンスの上の置物などが床下に落下、しかし実家の被害をのぞけば、家屋への被害や人的被害は出さずにすみ、不幸中の幸いであつた。地震学者がだれ一人これだけの大きな規模の地震が同じ地域で3年程度の間隔で発生することを予想できなかった。むしろ3年前の中越地震で地下プレートのひずんだエネルギーは放散されしばらくはこの辺での大きな地震は無いだろうとの学者の意見が多かった。しかし短期間のうちに二度にわたって発生した大規模災害地震、現代科学の知恵の結晶を集めて建設された世界最大の柏崎原子力発電所の安全神話すらが揺らごうとしている。現代サイエンスに懐疑的になると同時に、地球の温暖化の問題などを思うとき、現代サイエンスは本当に人類に将来の幸福をもたらすのであろうか。私はその後何度か地震直後の柏崎市へ、エコノミークラス症候群の検査ボランティアとして入り、被災現地の様子を真のあたりにしてきた、避難所の被災者のみなさんは以外に呑気で、どろんこのグランドの中で平気でテントを張り寝泊まりしている救援活動

の自衛隊のみなさん、明るく屈託無くそれでいてこいつらにはカナワンなど感じさせた米兵の肉体の力強さ。たくさんのボランティアの方々の献身的な奉仕活動、ただ支援の体制に統率製が無く、必要以上にサービスしていたり、ボランティアの方がよほど不自由な環境で行動しなければならない

矛盾も多く目にした。世の中何が起こるか解らない、まあ物事あまり深刻にとらえず、少しでも前向きに生きてりゃなんとかなりそうかなと、かつてペシミズム美学みたいなものに取り憑かれていた私に、むしろオプティミクな人生観を与えてくれた出来事でもあった。

中越沖地震その時

西新潟中央病院 K. Y.

大きな被害をもたらした中越地震から遅く復興して約 3 年、「天災は忘れた頃にやってくる」？ まさかの中越沖地震が発生した。

10 月 16 日は海の日で祝日、遅い朝食を取っていたとき突然の揺れ、震度 5 弱（新潟市）と後で知りましたが自分としてはあれほど大きい地震に遭ったことは無く、ああ、官舎が倒壊したらここは 1 階、これでお終いか？ などと思ってしまいました。収まって直ぐ、病院に異常が無いか見に行きましたが何事も無く安堵したものです。幸い、新潟市内では被害は有りませんでした

が震源地近くの新潟市周辺では相当の被害で鉄道・道路・ライフラインにおいて大きな打撃を受けていることを報道で知り新潟病院の知人に電話しても通じない状態で心配しておりましたが、大きな被害も無くホッと致しました。後日、用事で長野市に向かう車中、新潟市周辺の家屋を見渡すといたところにブルーシートで屋根を覆っている風景が見られ住民の方々の並々ならぬ心中が察しられる思いがしました。亡くなられた方々、被災に遭われた方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。一刻も早くの復興をお祈りいたします。

地震の雑感

さいがた病院 O. S.

丁度、日直中でした。

忘れもしない、10時13分。

病棟への廊下を歩いているときに、来ちゃいました。

窓がガシャガシャ騒がしいぞ、、立ってられないぞ。

居合わせた給食のおばちゃんは座り込んでぞ。

って、、いつまでも観照に浸ってられないので、、揺れる中、走った！走った～！、防災扉をかき分けながら。

直感的にエコー室の2階からの水漏れが気になり点検にいったところ、やっぱ、漏れてるワ！！
滝のように。

スタッフの安否が気になり電話するも、不通なり。

自宅が被害に遭われているにもかかわらず、技師長と近くのスタッフは直ぐ来た、速かった。

柏崎市内のスタッフの自宅は被害が大きく大変です。

幸いにも怪我はなくて良かったと思いました。

また、新潟病院を中心に深部静脈血栓症調査協力には頭が下がる思いです。

柏崎刈羽原子力発電所も気になるところですが、存在するものはしかたありません。

まだまだ、完全復興には遠い道のりと思いますが頑張らしましょう。

激震だ

モツれる足で

駆けつける

中越沖地震に直面して

新潟病院 K. K.

単身生活を始めて約3ヶ月がすぎ、病院にも少し慣れた頃、ちょうど自宅に戻っていた矢先にその揺れは突然襲いました。すぐ病院に連絡を取りましたが、なかなか電話が通じなくあきらめかけたところ、中島技師長より連絡が入りました。

私は当日の夕方、柏崎へ戻る予定でしたが上越新幹線が不通になったため、とりあえずTVで情報を得ていました。時間が経つにつれ、被害状況は意外にも大きく、また刈羽原発の放射能漏れも懸念しましたが、想像以上に被害が及んでいなかったのがホッとしました。

翌日には上越新幹線は動き始め長岡まで行き、信越本線は復旧のメドがたたないため、長岡から南雲技師の車で新潟病院になんとか辿り着くことができました。

検査室はちょうど耐震工事を終え、引越して約2週間が過ぎたところでした。それまで仮設の建物内でしたが、まだそこに検査室があったなら多大な被害を受けたかもしれません。

幸い検査機器は大きな損傷もなく稼動し

ていたので安心しました。

一方、官舎の被害はほとんど少なく、ガスレンジが台からすべり落ち、冷蔵庫のドアが開いていた程度ですみました。ライフラインは電気のみ使用はできました。水とガスがストップしていたため、煮炊きができず何かと不便を感じながらインスタント食品で凌いでいました。(携帯ガスコンロは必要です)

水洗トイレの水が使用できなく当面、院内のトイレを使用していました。(風呂の水を溜めておくと水洗トイレで使用できます) またお風呂は近隣の温泉に2、3日一度入りに行き、気分転換にもなりました。約2週間後に水、ガスが復旧したため通常の生活に戻ることが出来ました。

地震後すぐに対応できなく、中島技師長、検査科の皆様に感謝申し上げます。

またメーカー関係者、近隣の病院関係者、国臨協の皆様にはご協力・ご支援を戴き感謝申し上げます。

ありがとうございました。

中越沖地震

西新潟中央病院 T. S.

晴れた日の朝、玄関のチャイムが鳴る。いつもの農家のおばちゃんが、野菜を持って売りに来ました。家内は、大きな返事をして外に出て行った。私は、テレビを見ていたが家内の「何か食べたいものある?」という声に呼ばれ外に出た。しばらく三人で話していたら、遠くで聞き覚えのある犬の鳴き声がする。近所の奥さんが、犬を連れてこちらへ歩いてくる。犬は尻尾を振り私にほえる。私は手をたたき「よし来い」と手を広げた。その時大きな揺れがきた。地面が大きく回るように揺れている。皆不安そうに周りを見ていた。揺れが収まりお互いの顔を見て安心したところへ、新潟行きの越後線がいつものように通って行った。震源がどこか確認するため家の中に入り、テレビを見ると中越地方で柏崎だ。そのことを外の人たちに伝え、新潟病院と柏崎に住んでいる人たちに連絡をとったが通じない。柏崎以外の品田、渡部技師と連絡が取れ両氏とも新潟病院に向かうとの事。その後、越後線は運転見合わせとなった

ため自転車で西新潟中央病院に行き、各部屋の確認、病棟の長時間脳波の確認をして帰宅する。午後、新潟病院検査室直通の電話がつながりその惨状を聞いた。人手が必要ならばいつでも言って欲しい旨伝えた。手伝いに備えて、数日分の着替え、タオル、洗面用具、軍手、予備の下着をリュックに詰め、底の厚い靴を準備した。次の日そのリュックを背負い出勤。山田技師長に応援要請があったら、すぐに行きたいことを伝えた。新潟病院技師長に連絡をとったところ自施設で対応が可能ということを知り安心をした。その後、1週間リュックは病院に置く。家にもって帰ったリュックの中は8月31日まではそのままだった。地震後、狭い我が家の玄関に2リットルのペットボトル12本、タオル、バスタオル、食器類、割り箸、各種ラップ類、洗面用具、バケツ、各種洗剤、懐中電灯、簡易トイレ等まとめて置くことにしました。

中越沖地震を振り返る

西新潟中央病院 N. Y.

思い起こせば3ヶ月前、7月16日の10時13分、新潟県中越沖を震源地にした震度6強の激しい揺れが、柏崎刈羽地区を襲いました。

当日私は実家である加茂市に居り、車のオイル交換をしようとエンジンの下にもぐり込み、ナットを外し勢いよく流れ出すオイルを容器で受け止めていた…まさにその時でした。

シャッターがガタガタと音を出し始め、風かな？と思ったやさき、ゆさゆさと揺れ始めました。”地震だ”と思い、もぐり込んでいた車の下から直ぐに出て立ち上がり、その揺れの収まりを待ちました。確か長〜い横揺れで、眩暈に似た気持ち悪い揺れだった事を覚えています。(ちなみに加茂市は震度5弱でした)

直ぐに車のラジオを付け地震情報に耳を傾けました。震源が柏崎沖と聞き、当検査科の菊間主任の事、新潟病院検査科の皆さんの事が頭を過ぎった次第です。

この柏崎は、私にとって平成元年から9年までの8年間、単身で勤務した地であり、市内はもちろんの事、海(釣り)、山(登山・温泉)にと、殆ど知らない所は無いくらい、親しみと思い出の深い町でした。その町が

テレビ画面で無残にも映し出される光景(海岸線の崖崩れ、亀裂の走る道路、波打つ地面、道路の陥没、黒瓦の屋根を頂く古い家並みの倒壊)には驚くばかりでした。中でも原発施設からの火災の映像は、一瞬、放射能が漏れたのか？と心配した次第です。幸い漏れはあったものの人体に影響が無いレベルと聞き安心しましたが…その後、東電の相次ぐトラブル隠しで、これからの原発への不安・不信がいつそう強くなりました。

その後柏崎市内を通る機会があり、復興現場を見て改めて被害の大きさと、”がんばれ柏崎”と想う気持ちでいっぱいでした。

新潟県は、集中豪雨による水害、中越地震、豪雪や大規模停電と、ここ数年立て続けに大きな災害に見舞われています。3年後この様な大震災が再びやってくるとは誰が思ったことでしょうか…、改めて自然の驚異を再認識させられました。

”明日は我が身！”，”備えあれば憂いなし！”。

最後にこの度の中越沖地震で被害を受けられた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

2007 年 7 月 16 日 午前 10 時 13 分

西新潟中央病院 S. K.

3 連休最終日 午前中妻は仕事、私は娘と遅い朝食をとりテレビを見ていました。

突然「ドン！」と大きな音「地震だ！」と思うと同時に娘を抱えとにかく頭上より何か落ちてこないか それだけで揺れが収まるまでじっとしているだけでした。かなり長い間揺れていたと思います、揺れが止まって外に出てみると近所の人也大勢でいました「また中越地震が起きたのかな」と最初はそう思いました。

震源地は何処？地震の程度は？ 全てのライフラインが寸断され情報としてはラジオのみ。

しかし、中越地震の教訓でしょうか、私達も含め近所の人たちも妙に落ち着いていました。

ライフラインの普及には思いの外長引き

不自由な毎日が続きました。

あれから 3 ヶ月今も柏崎市内は所々大きな爪痕が残っています。

今回の地震で様々な事を考えさせられました。自然災害の予知には限界があります。阪神淡路、中越、能登沖、そして今回の中越沖地震 災害後の対応がこの一連の経験から改善されてきているのでしょうか、いつ何処で大地震が起きるとも分からないこの日本で、災害地のみならず国レベルで考えなければいけないのではないのでしょうか。

全壊された人たち、仮設住宅に余儀なく住まわれてる方々、そして今なお災害に心身に傷を負った人たちのことを決して時間とともに風化してはならないと思います。

県内を襲った2大地震 その時私は...

西新潟中央病院 K. T.

中越地震から3年を待たずに中越沖地震に見舞われた新潟県内、私自身は新潟市内に住んでいるため直接影響は受けませんでした。被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

中越地震の時は、友達と新潟駅で待ち合わせをして、駅南で待っている時に地震がきました。でも中越が震源地とは知らず、ずーっと友達を待っていたのですが待てども待てども友達は来ず、友達は電車の中に何時間も閉じ込められた状態でその日は結局会えず私はバスで帰宅しました。家へ帰ってテレビを見るとなんと大変なことになっているではありませんか。慌てて長男が長岡に勤務していたため電話をしたらそれほど影響は受けなかったとのことで一安心。又、今年の中越沖地震の時は、前々日、中越地震で大被害に合った蓬平温泉に一泊し

て翌日柏崎でもドライブしようかと思っていたのですが大雨だったため中止とし、これが1日遅れていたらどうなっていたことか？...

こんなことで、私の地震体験といっても幸いにも普段とは変わらない暮らしをしています。我家の防災グッズ（懐中電灯、ラジオ、テント、寝袋、登山時の食料等）を改めてチェックし、災害時にそなえ準備は万全にしておかなければと家族で考えさせられた時でした。

新潟県民会館前には、1964年6月の新潟地震の時、全国から寄せられた救援金でフェニックスが建てられ、生きて行こうよ、歩いて行こうよ、という気持ちが骨太に明快に表現されています。今回二つの大地震で被災された方々1日も早く復興されることを願っています。

大地震を思い返して

西新潟中央病院 K. M.

私も3年前の中越地震では実家が大規模損壊、後にその影響で祖母を亡くしている。

当時東京で暮らしていた私は地震速報に“まさか自分の身内が住む地域で地震なんて”とすぐに電話を手にとった事、なかなか連絡が取れず鼓動が早くなった事（実際に声が聞けたのは5時間後くらいだったろうか・・・）、全員の無事が確認できて安堵した事など今でも鮮明に覚えている。

そして、自身の目で見た家の衝撃は忘れられない。まさに廃墟である。力が抜けていくのを感じざるをえない状況であった。ショックだった。

そんな当手を振り返って思う事のなかに、人が持つ「人間力」がある。私でさえなかなか客観視できない状況の中、70歳を迎

える父親が“こつこつ”と毎日毎日片付けをする姿を見て家族がお互いを思い、それぞれができることを少しずつ実行し、目の前の現状を一步一步改善しようとする“気”のこもった人間の力を感じることができた事である。“優しさ、思いやり等々、普段からしている事でも相手に自然と伝わる本気の気持ちや行動は押しつけではなくより自然で円滑な状況やエネルギーを作るものなのだなあ”と改めて考えさせられた。

今回の中越沖地震の映像を見るたび当時の状況を思い出す。地震で人生設計が狂わされた人々の話を今でも耳にする。身内が被災した関係者の一人としてそれらの方々が今後幸せな日々を過ごせるように願わずにはられません。

備えあれば憂いなし

西新潟中央病院 K. K.

「三年前に大きな地震があつて、こんなすぐにまた来るとは思つてなかつた」中越沖地震を体験して感じたことです。根拠のない思い込みはやめて、日頃からの災害に対する意識や準備が大事だということを痛感しました。経験したことを教訓として生かさなければ何も意味がなくなってしまう。新潟大学医学部第二病理の長谷川先生が、2004年の中越地震を小千谷総合病院の病理検査室で体験され、その教訓を教室のホームページに以下のように書かれています。

【震災現場を目の当たりにしての地震対策】

1. 免震設計や耐震補強の施された建物であるか否かが被害の規模に関連する。
2. 顕微鏡やコンピューター等の種々の機器は倒れにくくなつてはいるが、設置台や台座に関する配慮は必要。
3. 組み立て式の棚は地震には非常に弱い。スチール製で箱型の棚を壁面等に固定して使用することが望ましい。観音扉などの固定も考慮する必要あり。
4. 薬品類はトレー内に一式ずつまとめて保管し、劇薬等も転倒防止策を考慮して収納場所を考える。
5. 標本箱・ブロック箱は地震には全く無防備。補強などが必要。
6. コンピューターのデータ等のバックアップは、別の場所にも行えれば最良。
7. 棚の倒壊や頭上からの崩落物に気をつける必要がある。
8. 水、懐中電灯、ヘルメット、コンロおよびラジオなどは常日頃から用意しておくことが、勤務先でも重要。

コストのかかるものもありますが、検査室ですぐにでもできることもあります。防災にやり過ぎはなく、防げるものは防ぐという意識と準備だけはしておきたい。

中越沖地震当日の自分自身のドキュメント

西新潟中央病院 Y. W.

地震の瞬間、小学生の息子が所属する野球部の練習に付き合っていたので、小学校のグラウンドにいた。風の強い日だったので、突風で体が煽られたと思ったが、それが地震と気が付くまでには、さほど時間は掛からなかった。小学校は信濃川の河口や海岸に近いため、津波に注意する旨のサイレンが鳴り響き、広報車が盛んに走り回っ

て一瞬の内に騒然となった。父兄の一人がとっさにカーラジオのスイッチを入れ、震度や震源地を確認した。てっきり新潟近県での大きな地震だと思っていたが、聞こえてきたのは“柏崎！”

私の両親とも柏崎市(旧柏崎市と旧西山町)の出身のため、親戚が柏崎市に多数いる。真っ先に頭をよぎったのは親戚の安否であ

った。しかし、数人の父兄で多数の子供を預かっている状況だったので、帰宅するわけにもいかず練習を継続しながらラジオからの情報に耳を傾けることにする。予定の時刻より早めに練習を切り上げ、子供達を帰宅させ急いで帰宅し、両親に状況を聞くが電話が不通のため状況が分からないとのこと。その数時間後、やっと父方の親戚の一軒と連絡が取れ、その親戚が父方の親戚中を回って安否を確認した結果、全員無事であるとの情報を得る。一安心したが、母方の親戚には相変わらず連絡が取れない状況が続く。結局、母方の親戚と連絡が取れたのは、その日の晩遅くであった。

被害の全くない新潟市ではあったが、はっきりなしに上空を飛び交うヘリコプターの音で只事ではない状況が近くで起きていると肌で感じられた。テレビから映し出される被災地の映像とのギャップにとまどいながらも。(中越地震の時も同じ心境だった。)復旧支援に現地に行こうと親戚に再度連絡を入れるが、「今、来てもらっても何もすることはできない。ライフラインが復旧してからの方がありがたい。」と断られる。“何もすることはできない＝何から手をつけていいかわからない”と容易に想像できた。それだけ甚大な被害ということも。

またもや大地震

新潟病院 S. N.

自分が生きている間にはもうこんな大きな地震を体験する事は無いだろうと思っていた中越地震から3年あまり又中越地方を震度6強の大きな揺れが襲う。今度は中越に沖が付いた中越沖地震だ!“どんだけ〜”中越をいじめれば気がすむのか!と言う気になるが大自然相手ではいたしかたないといったところだろうか。

この地震、中越地震が誘引になったという説が有力らしい、そしてさらにこの地震が将来マグニチュード8クラスの大地震を引き起こす可能性のある長岡の活断層の動きを活発にしていると言う説もある。(ヒエ〜)昔から2度あることは3度あるというのが中越地方に3度目の大地震は来るのだろうか?出来ればそう成らない事を切に願う今日この頃であるが是ばかりは神のみぞ知るといったところだろう。もし地震の神様がいたのであれば毎日お神酒を飲ませてでも永遠に眠らせておきたい心境である。

地震大国日本!いつ又大きな地震が来ないとも-----。災害の時だけ思い出され普段は忘れられている災害グッズ今一度見直しては如何でしょうか。水、保存食、懐中電灯といった定番に加え、あると意外と重宝するのがレインスーツ、着の身着のまま飛び出す事の多い地震の場合、非難した先に必ずしも雨風を凌げる場所があるとも限りません。又身体が濡れると急激に体力を奪われてしまいます。私も中越地震の時たまたま車のトランクの中に入っていたレインスーツ結構役にたちました。でも災害グッズ役にたたないのが一番ですね!!

それにしても今回の地震では皆様から暖かい励ましの言葉やお心ずかいをたくさん戴きました。紙面を借りて深くお礼を申し上げます。

中越，中越沖地震について

西新潟中央病院 T. M.

2004 年 10 月に越後川口を震源地に M6.8 震度 7 の大地震が起き、新潟は復興に向け頑張っている最中、それから約 2 年半でまた今度は柏崎沖を震源地とした中越沖地震が起きました。

7 月 16 日は祭日のためほとんどの会社は休みですが主人は休日出勤のため東京に。私は新潟（下越）の実家に来ていました。

地震発生時は家のたて揺れとものすごい音がしました。二階で休んでいると音が響いてきたので重機などを持った大型車が家に突っ込んだ様に思え、事故？とそのまま様子をうかがっていると、まだ音と振動は止まず事故にしては長いなあ。とだんだん怖くなってきたところに母の「(二階から)降りてきなさい」の声でようやく大きな地震とわかり、逃げなければと階段を駆け下りました。実家の降り慣れた階段でしたが両手を壁伝いにドタバタと降りていました。玄関ではなく裏口の方から声が聞こえたので行くと父母が待っていました。祖母は近所の友達の家へ行ったとのことなので、まだガタガタと音のする中、三人で道路に面した表（玄関）へまわるとちょうど出かけていた祖母が到着して全員が集まりほっとしました。

私は音の印象が強く、周りの揺れは全く目に入っていませんでしたが後で聞くと外に立っていて家が揺れるのがわかったり、サイドブレーキをかけていた車が前後に揺れていたそうです。揺れがおさまり家へ入り震源地はどこかとテレビをつけると県内の沿岸に津波警報、注意報の赤や黄色のラインが見られ新潟県が震源地ということが

わかりました。そして時間の経過とともに情報がどんどん入ってくる中で家屋崩壊の映像が映し出されひしひしと地震の恐ろしさが伝わってきました。

夕方の余震も大きく、またこれ以上大きくなったらどうしようと今までにないほどの恐ろしい体験でした。

2 年半前の中越地震の時は私は東京で勤務しており、東京は震度 3 でした。震源地が新潟という情報が入りすぐに家へ電話をして、とりあえず無事を確認して、又かけるからと言ってから二日間は電話がつながらず、不安な思いで過ごしていました。そして多くの被害を受けた越後川口は当時、関越道を利用して東京へ帰る時にいつも通る所で、走行中窓を閉めていても田んぼでの焚き火のにおいや木のにおいなどがしてとても癒され、車窓から景色を眺めながら「やっぱり新潟はいいな」と思いながら、その後すぐに関越トンネルをくぐり抜け東京へ向かうという繰り返しでした。震災後にここを通ったときは家や山の斜面がブルーシートで覆われていたり、一車線走行でガタガタで蛇行した高速道路をみて地震の怖さを知りました。

私の体験や思いなどは、被災された方々のご苦労、大変さははかり知れませんがこのような事はもう二度と起こらないように願います。

「中越沖地震の教訓」

西新潟中央病院 M. H.

地震発生前日、私は一家で妻の実家に遊びに行っていました。ちなみに妻の実家は見附市のはずれの田んぼのド真ん中にあります。窓からは新幹線が通るのを見ることが出来ます。新幹線が通らなければとても静かなところですよ。

お義父さんはいつものように美味しい焼酎を用意して私を待っていてくれたらしく、その夜は義弟さんと3人で夜遅くまでしこたま飲んでおりました。

そのおかげで翌日、私と義弟さんは二日酔いで潰れておりました。私は気持ち悪く朝食もとらず寝かせてもらっていました。息子も心配してくれていたのか私の様子を見に部屋に入ってきました。ちょうどそのとき地震がおきました。二階にいましたので揺れはだいぶ大きく、私はとっさに息子を布団の中に入れました。地震を察知した

妻がいち早く息子の所にすっ飛んできたのには揺れる中、感心していたのを覚えております。

家屋の損傷はありませんでしたが、家具のほとんどが倒れ、鏡台の鏡や棚のガラス戸は割れてしまいました。家具を元に戻し、割れ物、壊れ物を大体片付け一応は生活できる状態にして、私はまた布団の中で寝させてもらいました。正直申しまして、地震なんかよりも妻の視線のほう怖かったのはいうまでもありません。

上越へ行く道中、ブルーシートをかぶせた屋根や、倒れたままの家等を見ると当時の地震の凄まじさを痛感するとともに、二日酔いで地震どころではなかった当時の自分を恥ずかしく思い、「やっぱりお酒は飲みすぎてはイカンな」と変な教訓を残したのが今回の中越沖地震でした。

地震の感想

さいがた病院 M. C.

僕は、中越沖地震発生時は県外にいて、昼過ぎにニュースで知ったため慌てて自宅に帰ろうとしましたが、長岡付近から高速道路が通行止めになっていたため、小千谷から一般道を通ってきました。

避難所以外電気の付いていない真っ暗な街、倒壊した家屋、隆起や陥没、亀裂だらけの道路、そして歩いて避難所や病院に向かう人達など、生まれて初めて見る光景に、ニュースで見た以上の状況の凄惨さを知り、

改めてというより初めて地震の恐ろしさを身近に感じました。

幸いなことに自宅に被害はありませんでしたが、もし、子供が家にいる時に地震がきて家具が倒れてきたらと思うとゾッとします。

もう二度とこんな大きな地震が起きない事を願っています。そして一日でも早く完全に復興するようにみんなで頑張らましょー！

「地震の感想」

さいがた病院 O. N.

あれはちょうど、当直を終えて自宅に帰り洗濯を終えて洗濯物を干すのが面倒臭くなり、コインランドリーで乾燥させていた時でした。

コインランドリーのテレビを眺めながら乾燥が終わるのを待っていると、何やら小さな揺れがして、その後に大きな揺れがすぐに来ました。

店の床が大きく揺れたかと思うと洗濯機や乾燥機が大きく揺れ、周りの人はパニック状態…＼(°ロ＼)

ココハドコ？(／ロ°)／アタシハダアレ？
幸いにもすぐに揺れはおさまり、テレビを見て被害状況にビックリ！！一方、車は何事もなかったかのように走っていました。

すぐに家族に携帯電話で連絡を取り無事を伝えることができましたが、周りの人たちはなかなかつながらない様で『つながりますか？***はダメです』と聞かれました。ちなみに自分が使っている機種は Soft Bank です。

洗濯物が気になったので、乾燥機を開けると濯物は暖かくない状態で終了しました。地震のせいで乾燥機の温度ブレーカーが落ちてしまったようです…。地震のせいで故障の連絡先にもつながらない状態なので渋々生乾きの洗濯物を持って帰ってきました。

急いで病院に向かうと、病理検査室が水浸しになっていて、技師長と副技師長が一生懸命に排水作業をしていたので手伝い、一段落してから他の場所を確認して回りました。

大型冷凍庫の足場が動いて傾いていたり、試薬室の棚から試薬が落ちそうになっていたり、恒温器が倒れていたり、書類棚が倒れていたり、臓器保存容器が落ちそうになっていたり、想像以上に凄かったです。

片付けが終わり、家に戻るとすぐに2回目の地震が…また、病院へ急行！！落ちそうなものは下におろしておいたので、今度は何も起きていなくて良かったです。

ﾌｯ～(+_+)

その夜は、また地震があるんじゃないかと思いながらも、グッスリと寝てしまったのは肝が据わっているのか、ただの能天気なだけなのでしょう…

地震を体験して考えたこと…

- ・ コインランドリーでしていた洗濯物は諦める…
- ・ 車に乗っている人は地震に気づかない…
- ・ 携帯電話にもつながり易さがある…
- ・ 多分大丈夫が大変なことになる…

最後に柏崎市内を通ると未だに路面が歪んでるところもあり、一日でも早い完全復旧の日が来るように皆さんの力を出し合って頑張ってください！！＼(ゝoゝ)／

地震の感想

さいがた病院 H. H.

とにかく今回は怖かった！半世紀以上生きてきて今までで一番怖かった！！

DVDのラックが倒れてきてもう少しで下敷きになるところだった。

怖かった～！！ と、さいがた スーツさんよりコメントいただきました。

代筆 H

私は前回の中越地震発生時は妙高の橋の上を車を運転してた。わずかに揺れを感じたものの大型のトラックかなにかの振動か私の車自体の故障か・・・？と思ったが揺れが止まったのでじきに忘れてしまった。自宅が近づき電話をしたら「おかけになった地域は現在おつなぎできません」ん？？何だ？？それでもまだ地震とは到底考えられず。家についてからが大変だった。

今回は自宅にひとりだった。掃除をやっと終えて座った瞬間、地震！「え、まだ止まらない、え、強くなってる？？」とじわじわ強くなる感じがあり、ついに家を飛び出した。道路の上でゆらんゆらんと揺れる足元を感じながら、同じように揺れる電線や木々。いつ止まるのか？と思いつつも、ポケットに入れていた携帯で息子に電話。すでにつながらない。家の中に戻ってみるとまず玄関の水槽から水があふれびしょびしょ。風呂場や部屋の壁がくずれ、倒れた家具もあった。二階にあった水槽は倒れてこなごな。家族の安否はわからないし、どこから片付ければいいのかと呆然と立ち尽くした・・・のは一瞬。まず二階の洪水を何とかしないと！！じきに父母がそれぞれ無事に帰宅し掃除にかかってくれた。応急処置をして病院にむかった。どれほどの

時間がたっていただろう。怪我人はいないだろうか？周辺からも手当てに来てるだろうか？検査室の機器類は大丈夫だろうか？さいがたにはドアに鍵をかけなくてはいけない患者がいる。その人が飛び出していないだろうか？頭ではそう思っても自宅を見捨てては行けず、かなり遅かった。幸い技師長・副技師長らがすでに二階から漏れ出した水の掃除やらを始めていてくれた。それ以外はめだった被害はなく、続きをお願いして帰らせてもらった。その頃からようやく携帯にメールが届きだし、電話も時々通じるようになり親戚や友人にも無事を伝えることができた。

停電が一時あり、断水はしなかったがしばらく濁った水がでた。あれから3ヶ月。ちょっとした揺れや音に敏感になっている。もし今おきたら・・・とすぐに思ってしまう。だがそれほど防災意識があるわけでもなく大して生活は変わっていない。ただもう水槽を二階には置かない！もう地震はこりごりだ。復興の厳しさはこれからだと感じています。上越もあちらこちらで工事しています。個人個人の生活に密着したさまざまな形の爪痕をどう立て直していくか・・・。

越後のパワーを信じるばかりです！

地震その時

新潟病院 H. W.

グラッ、ゆれた “おおきいぞ” っと主人がいった。瞬間ぐ～らぐ～らとゆれ始めた。“ながい” と感じた。揺れがおさまるまでじっとした。家族の名前を呼びながら安全を確認した。とっさに 3 年前の地震と重なり、品田さん家は大丈夫かと携帯電話をならしたが、コール音が続くだけだった。テレビをつけた。“えっ！ 柏崎なの、病院は？ 今日当番渋谷さんじゃない！” 3 年前の地震時に直下にいた彼女が、しばらくの間地震のトラウマになっていたの心配になって電話をした。検査科までつながらない。“これは行った方が早い” 災害がこれほどとも思わずに、ただ様子を見に行ってくるつもりで、通常通り往復 2 時間で帰ってくると、家をでた。新井柿崎線はスムーズだったが、柿崎に近づくにつれて、様子がおかしい、ブロック塀が倒れている。公民館に人が集まっている……。変。8 号線に入った。渋滞だ……。なんで？ 柿崎中学校の前の道に大きな亀裂が入っている。道路全体がへこんでいる。信越線の電車が妙なところで人を乗せたまま停車している。太陽が暑いや。まだ事の大きさが分からないでいた。米山海岸の途中でレスキュー車が 3 台くらい追い越していった。前にいたトラックがなにやらすれ違いのトラックと話をして、U ターンした。予定の 2 時間はとくに過ぎている。いつも通勤で目に入り、気にいっていた米山と上輪の間にある岬が削れていた。住民と消防団が行き来してい

る。ゆるゆる米山の坂をあがると、胎姫橋のたもとに大きな段差ができていた。土囊が積まれ、わだちの道が作ってあった。目を横に向けると、家が・・・コワレテイル。土囊を渡る順番が来た。ゆっくりと渡る。車はやっと流れた。家がひしゃげているのが見えた。窓ガラスがない。瓦は散乱している。フィッシャーマンズケープ日本海の壁画が今にも落ちそうな大きな落石で隠れている。道は、中央に亀裂ができて挟まっている車がいる。両端がとろけたように垂れ下がっている場所がある。病院が近くなりコンビニで食料をと、入ってみた。人だからだ。あれ？ 電気ついてない。棚が横たわって重なっている。食べ物、あった。カップラーメン……。とにかく買っていこう。“急がなくちゃ” と病院に向かった。

いまでも青いビニールシートが掛けられた屋根がみえます。工事が始まったばかりの道路もあります。これから寒くなり、生活を取り戻すには容易でないことを感じながら、被災者住民の方々が、一日も早く復興できることを願ってやみません。

中越沖地震の体験

新潟病院 M. Y.

7月16日、前日から妻の実家（柿崎）に泊まりに来ており、「今日は上越方面にでも出かけようか…」などと家族で話をしていた。10時13分、最初の揺れに、一瞬「また、いつもの余震くらいだろう…」と思った。しかし、次の瞬間、食器棚から崩れ落ち割れる食器の音や何かが倒れる音に反応し、子供たちに「早くテーブルの下に！」と怒鳴っていた。自分も何かにつかまろうとしたがバランスを失い、立っているのがやっとであった。ようやく揺れも治まり、しばらくして、皆が無事であることが確認でき安心したが、震源地が柏崎と聞き、急いで荷物をまとめアパートに向かった。

通常であれば30分位で行けるところであるが、渋滞でいっこうに進まず、「ガソリンは大丈夫か？飲み物を用意してくればよかったか？」などと不安と焦る気持ちが込められてきた。時折対向車が通ったが、その中で両手をX字にして合図している車があった。「柏崎までいけないのでは…？」と不安になったが、とりあえず行ける所まで進むしかないだろうと思い向かった。米山付近で消防団の人から「米山大橋に段差ができていますため徐行運転ですが、通行可能です」と話を聞くことができた。現場に着くと、道路と橋の継ぎ目部分に約20cm位の段差ができてしまい、その部分をタイヤと板木で補い一台一台通行させていた。その都度位置がずれてしまうため、元に戻しながら

通していた。これが大渋滞を招いていたのである。なんとか橋を通過することができ、しばらく走行できたが中心部へ近づくにつれ、亀裂が入りうねり曲がった道路や倒壊した家屋が多く見られるようになり、不安が募っていった。鯨波付近の道路では、亀裂に後輪が挟まってタイヤが外れてしまい乗り捨ててある車などもみられた。結局、2時間以上かかってようやくアパートに辿り着くことができた。

外見的にはそれほど被害はひどくなさそうであったが、鍵を開け部屋に入った瞬間目を疑った。ほとんどの棚や物が倒れており、あたり一面に散乱していた。台所では食器や割れたガラスの破片が一面を被っており、カーペットには何かの液体が飛び散り、異臭を放っていた。壁はひびが数箇所が入って、壁紙は破れた状態になっていた。部屋自体が多少歪んでいるためか襖も動かなくなっていた。寝室ではタンスが倒れており、ちょうどそこは子供たちがいつも寝ている場所であった。もし、この地震が真夜中で、この場所で眠っていたならば…と思うと戦慄を憶え、改めてここに居合せなくてよかったと感じた。その日はとりあえずのかたづけに追われたが、いまでも鮮明に覚えていることは、自衛隊や報道関係のヘリコプターの音が一日中鳴り響いていたことであった。

『2 回の地震を体験して』

さいがた病院 Y. I.

2007 年 7 月 16 日 10:13

『あっ、電話。』

柱に右手をかけ片足を立てたところで
〔突然〕物凄い揺れで立ち上がれずそのまま

柱につかまった。背後に何かが倒れてきた
気配を感じたが振る向く事も右手に硬い
ものが当たったがその手も体も動かすこ
ともできなかった。

壁が倒れ、テレビが本棚が箆笥が押入れ
や戸袋の戸が外れ、上にあるものすべてが
ゆっくりと流れるように落ちてきた。そ
の光景を生体離脱した“もう一人の自分”
が見ていた。

2 回目の大きな揺れの後ようやく立ち上
がれることができた。

どれ位の時間だったのだろう。後ろに倒
れたのは箆笥だった。

とにかく外に出なくては・・・

廊下は落ちてきた壁と埃でくもっていた。
玄関まで来ると戸が外れ、ガラスが飛び

散っていました。屋根の瓦がさらさらと
落ちてきた。とにかく土埃が舞っていた。

お隣の声が出て、ようやく息をしている
自分が判った。

外に出てみるとお隣の車庫が倒れ、お向
かいの家が見えなくなっていた。

足元のコンクリートが割れ、石塀が倒れ、
庭樹が根本から倒れ、池の水がすべて

無くなっていた。今まで見たことがない
光景だった。

震源地は何処だろうか？また小千谷や十
日町かな？

防災放送は津波のことばかり指示してい
た。

揺れがないときに家の中をのぞくと電話
は停電のため使えず、やっと持ち出した
携帯電話は『圏外』のため繋がらず不安

だった。

余震の度に近所の方たちと集まっていた。
不思議と怖くは無かった。

震源地が柏崎のことや原発の火事の事が
判ったのは夕方だった。

暗くなっても家族と連絡も取れず、車庫
が倒れているため車も出せず、庭の安全
と思われるところでじっとしているしか
なかった。そのまま一晩を過ごした。

朝になりお隣がバイクでコンビニに行っ
ておにぎりや水を買ってきていただいた。

2 日目は余震も少なくなってきた。玄関や
家の中の片付けを始めた。

携帯は依然と圏外のままだったけれど家
族からメールや職場から電話がかかって
きて自分や仲間の無事なことを知って安
心しました。

『とってもうれしかった』ことをよ～く
憶えています。

地区の避難所の連絡がきたけれど戸が全
部開いている家を留守にできなくそれに

20 分以上歩くガッツは無かった。お隣
のようにバイクがあるといいなと思った。
(避難所はもうすでにいっぱい受け入れ
不可能でした。)

それから 1 ヶ月間、柏崎は土埃と迷彩色
の自衛隊が溢れ、戦場のようなだった。

職場には高速で通った。帰りは大渋滞で
9 時過ぎに家に着いた。

4 日後に電気が復帰し、20 日後に水が出
るようになったけれど下水やトイレの

配管が壊れていて流せず、トイレは 1 ヶ
月避難所に車で通った。

朝、目が覚めると水タンク、帰っても水
タンク。1 ヶ月後にやっとガスが出たが
ユニットバスのバスタブにひびが入って
いてこれもまた暫く使えなかった。

お風呂や洗濯も時間に追われ順番待ち、

吉田や新潟まで通った。

電気が無ければ生活出来ないこと、蛇口をひねれば水が出ることは『当たり前』

では無いことを思い知らされました。

非常用持ち出しも準備はしてあっても押入れの中ですぐには役には立たなかった。

そして日頃からの近所の方たちとの交流が大切なことも改めて感じました。

3年前の中越地震のときは小千谷にいて夕方で一瞬にして闇夜になったけれど

3人一緒でしたのでなんとかなると希望と安心感がありました。

1. 災害時は家族・友人や職場に安否を知らせ合えるように最低限の連絡網を作っておくこと。
2. 家具はキャスター付き、できれば家族

が休むところには家具は置かないこと。

3. 非常持ち出し用品は出入り口近くに備えておくこと。

(水・ラジオはすぐに必要でした。)

4. バイクは道路の陥没や渋滞でも走れるのであると重宝いや必要と思いました。

5. 少し落ち着いたら、連絡を取り声を掛け合うこと。

(とっても嬉しいものです。)

決して今後地震が起こってほしくありませんが、日本に住んでいる以上避けられません。

どんなときも一人ではない、皆さんからやさしくしていただいたことを忘れません。ありがとうございました。

感想

さいがた病院 Y. O.

7月16日、柏崎ぎおん祭り発祥の地、八坂神社の子供神輿が出る日です。ピーヒャラドンドン、お祭りのお囃子が聞こえてきました。さて外へ出るかな。祝儀袋を持って外へ出たとたん、グラグラグラ。なに？突然の揺れに地震だと気付くまでにちょっと時間がかかってしまいました。揺れがおさまって回りを見ると大変な事に・・・家の中に居なかったのでエクソシストの様な動きを見ずにすみしました。これは八坂神社の神さんのおかげか？町内の人は多かた外に出ていたので、きっとそうに違いないとうちのおばあ様はのたまう。でもね、外に出て家の下敷きになって亡くなった人もいますけどね。また義妹は昨夜死んだ

ジーさんが家の裏で金槌トントンしてる夢を見たと言う。ふへん、そうかもね。嫁はちょっとさめている。まあ3年前の中越地震の後おじいさんが細い紐で食器棚吊ってくれたおかげで倒れずにすんだんですけどね。電気、水道、ガスみんな止められておばあさんは死んだ様になってしまいました。「心臓が心臓が・・・」カップラーメンなんか買い占めに行くからだよ。自分の身だけ考えてよね。幸い電気は翌日の夜には来ました。皆で手をたたいて喜びましたよ。明るくなってオババ50%復活。水が出て80%復活。ガスが出て完全復活。「心臓が心臓が・・・」と今でも言ってますけどね。本当に大変な経験をしてしまいました。

大地を揺すった中越大震災

新潟病院 K. S.

3年前の10月23日の夕方6時頃、祖父は法事から帰ってきて夕食を食べずに休み、子どもは自分の部屋で眠っていた。私は法事で頂いてきた花を仏壇に上げるため洗面所で花を生けていた。夫は小学校の創立130周年記念式典に出席していた。「ドカーーン!!!」

突然の大きな音とともに私たちは宙に浮き、同時に真っ暗になった。一瞬、近くに爆弾が落ちたかと思った。すぐにグラグラと立ってられないような揺れがきたが、あまりの衝撃の大きさに地震とはすぐに認識できなかった。とっさに祖父と子どもにすぐ靴を渡し、近くの保育園に避難していた。保育園には続々と町民が集まってきた。この時点ではみんなで「何が起きたんだね」と町民の集まりのような雰囲気でしたが、2度目の大きな揺れが来てようやく大変な事態になったのだと思った。夫は家族の無事を確認して、すぐに町民の安否を確認するため町内中をまわった。全壊した家や崩壊した道路や施設もあったが、幸いなことに町民自体の命に別状はなく安心した。しばらく建物に近づくのは危険と考え、保育園のグラウンドの中心部に座り込んでいたが、次第に液状化現象でグラウンドが水浸しになり座ることもできなくなった。しば

らくして、硝子で腕を切った方1名、倒壊した家の下敷きになり腰を打撲した方1名、テレビで頭部強打1名のけが人が名乗り出てきた。腕を切った方は出血が多く、すぐに地元の消防車で病院に搬送され、頭部強打の方は、救急車で隣の市の病院まで搬送された。腰を打撲した方はそれらの方に比べると軽症であったため、明るくなるまで我慢してもらった。そして、夜になると急激に寒くなってきた。寝たきりの老人もいて、外で過ごすのは危険であると考え、寒さしのぎのために地震で多くの家具や道具が乱れ飛んだ保育園の中に入った。中には毛布が無かったため、園児のお昼寝用の布団を出して寒さをしのいだ。その晩行政から来たのは毛布5枚のみでした。私は一睡もせずトイレにおきた方の誘導や真夜中に来た方の対応と数人で約130名の避難してきた人の明日からの生活をどうするかを相談した。(食事、トイレ、寝たきりの老人の対応等)

次の朝、僅かな食料が来たがみんなに配る数もなく、家から釜を持ってきて昔ながらのご飯を炊く事にしたが、若い人は初めてで炊き方が分らずひどいおこげご飯になってしまった。各家庭から冷蔵庫中の肉を持ち寄り畑からねぎや大根等をとってきて豚汁を作った。田舎は米と野菜がどこにでも有るから助かる。130人の食事作りをしていると1日がすぐに過ぎてしまう。気がついたら夫は3日間礼服を着たまま、私は長靴を履いたまま、リュックを担いだまま過ごしていた。3日経っても電気がつかず、テレビもないため、街がどのような事態になっているのか全然わからなかった。自宅は、祖父と大学から駆け着けた息子や、親戚が応急修理をしてくれた。週末に検査科



の人が応援に来てくれたのでどうやら家に入れるようになった。その後、私たちの地区ではライフラインの復旧には、電気が10日、水道が20日、下水道20日、ガスが40日かかったため、約1ヶ月間は不自由な生活を強いられた。そして、3週間で避難所は完全に閉鎖した。(町内会長体験記)



1週間後職場復帰した。職場に來れば地震があった事などまったく感じられないが、小千谷に向かって行くごとに暗闇になって行き、桜町トンネルを出るとまったく別世界のようなだった。暗闇の街にパトカーと警察官が立っている、まるで廃墟の街のようでした。気持ちが非常に落ち込んでしまいました。元の明るい街に戻るのだろうかと思いましたが、3年後の現在は元の明るい街に戻っています。

この後も壊れかけた家で不安な生活を強いられるのは嫌なので、安心した生活を送ることが出来るように、春に家を建替え新しい生活をスタートさせました。

中越大震災で多くのことを学び、今度地震が来たら今回の体験を十分生かしていこうと思っていたら、今度は職場を直撃した中越沖地震が来てしまった。家族の安全を確認し、家の子供に頼み、バッグに着替えを入れて「今日は帰れないかもわからない」と言い病院に向かった。途中の道路は想像していたより被害が少なく、病院も電気が

点いていて安心した。私が検査室に着いたとき廊下は水浸しでしたが、何も無かったかのように当番が顕微鏡を覗いていた。(当番玉井) 取りあえず明日から業務が出来る様にして置けばいい。

中越沖地震では中越大震災の経験が活かされ、すべてが速い対応のお陰で復興も進み次第に安心した生活も送れるようになったが、私にはもう一つ終わらない地震がある。

中越大震災1週間後電話が鳴り「品田さん来て!!」から始まり、現在も続いている下肢静脈エコー検査である。車中泊者4名が肺塞栓症で死亡したことから始まった予防検診業務です。すべてボランティアで実施していたのですが、「品田さん!! お金が無くては限界がある、お金を何とかできないか!!」といわれ、元西新潟中央病院検査技師長の目崎さんに相談、行政に協力依頼した。新潟大学の榛沢先生を会長、目崎さんを事務局長、新潟病院副院長の中島先生を医療アドバイザーでエコノミークラス症候群検診支援会を立上げ活動を開始した。はじめは理解してもらえず大変でしたが、その後小千谷市の医師、健康センター長、保健婦も支援会に参加してもらい、勉強会を開いたりして、3年経ってやっと行政からも理解して頂ける様に成って来たようです。多くのボランティアの方に支えられ3年間休む暇無く過ごしてきました。もう地震が来ないように願っています。

地震大国日本、何時何処で皆さんも遭遇するかも知れません。命があれば人間は強いから元の生活には戻れないが、新しい生活をスタートさせられます。日頃から備えと覚悟が必要です。



地震当日の新潟病院検査科

新潟病院 M. T.

「え～！もう地震は来ないはずじゃなかったの～？！」というのが、あの大きな揺れが来たときの最初の思いでした。7月16日、私は休日勤務のため、朝10時から検査室で仕事をしていました。丁度尿沈渣を顕微鏡で観察していたとき、あの大きな揺れが襲ってきました。ガラスが割れる音、検査機器や冷蔵庫やコンピューターなどが倒れる大きな音が一気に私の耳へ届き、とっさに机から離れ「キャー！ヤダー！」と一人叫びながら廊下を走って行きました。まずは2階の検査室から1階へ降りてみたところ、ひどい揺れだったために埃が立ち込め、別世界のような感じがしました。日直当番の看護師と話したところ、まずは検査ができる状態にしてほしいとのことだったため、検査室に戻りました。しかしどこから手を付けていいか分からず、一人で右往左往していました。そんな中、一番ラッ

キーだったことは、停電しなかったことです。おかげで緊急検査機器に関しては、すべてが通常通りに稼働し、当番の私としてはホッと胸をなで下ろしました。しかし生理検査室をのぞいてみると、なんと雑排水の配管が壊れ、水が流れ出しているではありませんか！棚から落ちた本や消耗品はみるみる水浸しになり、水の勢いが止まる気配はありませんでした。部屋は水浸し、そしてどんどん廊下へ広がって行きました。頭が混乱している中、まずは中島技師長に連絡をとろうと思い電話したところ、残念ながらまったくつながりませんでした。携帯電話を片手に持ちながら、片付けをしつつ、他のスタッフや自分の家へ、つながらない電話をかけ続けていました。そして一番最初にかかってきた電話は奥田専門官からでした。自分では落ち着いて被害状況を説明しようとしていましたが、知っている





人の声を聞くことができ、ついポロッと涙が出てきてしまいました。その後、中島技師長とも連絡がとれ、少しずつ落ち着きをとりもどしつつありました。また、さいがた病院横田技師長、西新潟病院新保副技師長からも連絡を頂きました。地震発生から1時間程がたち、廊下の向こうから「玉井さ～ん！！」という大きな声が聞こえてきました。水浸しの廊下の向こうから、品田さんが来てくれました。私には品田さんが光をまとった救世主のように見え、またまたポロッと涙が出そうになりました。そこから片付けが本格的に始まりました。まずは壊れたガラスを拾い集め、機器、コンピューターなどをもとの位置に戻しました。床に落ちたものは多くありましたが、機械類は壊れたものは殆どなくラッキーだったと思います。その後渡部さん、中島技師長と順次病院へ駆けつけてくれました。配管からの雑排水は、ボイラーの方の奮闘で流れは止めることができました。あとはひたすら廊下に広がった水を片付けました。病院事務職員、メーカーの方にも協力してもらい、なんとかきれいにすることができま

した。この間、本来業務の検査が出ることもなく、また余震に脅かされることも少なかったこともラッキーでありました。病院の中でも幸い怪我人は出ませんでした。というような具合で私の地震当日の業務は終わりました。



今回の地震において、「一回地震が来たら、もう次は来ない」ということはあり得ないとしみじみ感じました。どこにいても危険はあり得るのだと肝に銘じ、もし災害に遭った時でもそこから立ち上がる強さが必要なのではないかと思います。

7 月 16 日月曜日海の日

新潟病院 O. N.

7 月 16 日月曜日海の日午前 10 時過ぎ、私は山で、谷川に沿った土手の草刈りを始めたばかりだった。刈払機のかん高いエンジン音の中、伸び放題の夏草をやや重い心持で刈っていた。ふと胸ポケットの携帯電話がブルッたような気がしたが、刈払機の騒音と振動で判然としなかった。少し間があって背後に人の声を感じて振り返ると崖の上に家人の慌てた姿が目に入り、何事かとエンジンを停めて近づくと柏崎で地震だと言う。ここでもかなり揺れたと聞いたが、全く揺れがわからなかった。

坂道を駆け上がり、刈払機を放り投げ、家に駆け込むとテレビの前に釘付けとなった。柏崎で震度 6 強、暫らくしてようやく事態が見えてきてところで、病院検査室ダイヤルインへ電話をしてみたが一向に繋がらず、代表番号も同様、勤務中のスタッフの携帯電話もまったく不通であった。とにかく柏崎へ戻ろうと息が詰まる思いと地に足がつかない感覚の中、時々つながらない電話の発信を試みながら支度を始めた。副技師長とは連絡が取れたが千葉の自宅で情報はなかった。

11 時、ありあわせの食料を車に放り込み、とるものもとあえず 280km 先の柏崎へ向かった。車中、ラジオの情報を耳を傾け、時々入る家人からの情報を聞いたものの、現地が、病院がどうなっているのかまったく分からず、不安と焦燥が増すばかりであった。途中の高速道路が通行止めとの情報から現地入りは夜になるかもと覚悟して、燃料も予備タンクも含め満タンとした。

12 時過ぎ、PA に車を停め、何度目かの電話をトライしようとして留守録メッセージがあることに気がつきアクセスすると、勤務中のスタッフ T さんの悲痛な叫びが耳

に飛び込んできた。「パソコンが落ちた」、「ガス分析がだめになった」など深刻な事態が起こっている様子だった。こちらであちこち電話連絡をしようしていた時にかかってしまったようだった。期待半分で検査室へ電話すると、幸運にもつながり T さんと話ができた。T さんには怪我もなく、検査室も最悪の状況は免れた様子で電気も回復、また S さんも駆けつけてくれたとのことで、T さんの声は留守録の時とは違ってかなり落ち着いていてまずは一安心。

“しかし何時に着けるだろうか？”

PA を後にしてまもなく、高速道路の通行止めが長岡まで解除との情報を聞いた。

“この分だと陽のあるうちに着けるかもしれない”

黒崎の PA で水を買った。「災害救援」の幕をつけた電力会社や電気工事会社の車両が目立った。長岡からどのルートで向かうか迷った。ラジオのレポーターが小千谷から入ったといていたが、かなり遠回りになると思い 116 号線からのルートを選んだ。中ノ島見附で高速を下りて最短距離で目指したが、通りなれない道で迷いかけた時に T さんから電話が入り「S さんが来た小千谷からの道が安全で確実」との助言があった。検査室には W さんも駆けつけてくれて水浸しの廊下の排水作業に勤めてくれているとのこと。

家人の勧めで途中のコンビニで食料や水を買って足した。長岡から小千谷まで高速に乗りなおし、柏崎に向かった。峠をひとつ越えると電柱の多くが少し傾いていた。停電しているらしく信号は点いていなくて交差点は左右をきょろきょろしながら徐行して抜けた。通行する車は多かったが、渋滞はなかった。

3 時半前だっただろうか。突然車が不規則に揺れ、あたりの電柱がユッサユッサと揺れていた。ラジオの情報でこれまで最大の余震と知った。ここにくるまで地震の被害をほとんど見なかったため地震の怖さを実感しなかったが、この余震で初めて恐怖感が溢れてきた。2 つめのトンネルを通る時、ここで大きな余震が起きトンネルが崩壊したらアウトだなと思った。かなり前に北海道で起こった土砂崩れによるトンネル崩落での生き埋め事故のことが頭を過ぎり、思わずアクセルを踏む足に力が入った。

高柳に入り道路のひび割れが目立ち、ところどころに段差ができていた。途中の集落では傾いて壁にひびが入った家屋も眼についた。市街地に近づくにつれ家屋の被害が目立って増え被害の大きさを予感した。交差点の信号はほとんど消えていた。十日町からの道との交差点は渋滞で通過に時間がかかった。茨目付近の道路は大きく陥没し迂回を強いられた。多くの人々が不安そうに戸外に集まっていた。電柱は大きく傾き、電線が路上を這っていた。家が崩れて道路を塞ぎ、誘導されて自動車学校の中を通った。8 号線のバイパスはいたるところで段差ができ、車は徐行して斜めに段差を越えていく。突然現れる道路にはみ出した屋根に仰天した。市街地では屋根だけとなった家が何軒も眼についた。

4 時過ぎようやく病院到着、出発から 5 時間、地震発生後 6 時間経過していた。病院の建物は外見からでは損傷の様子は良くわからなかった。駐車場に車を止め、とりあえず宿舎の状況を見た。もともとちらかかした部屋の中はいっそう物が散乱し、棚のものは落ちて、引き出しは飛び出していたが、テレビは台の上にとどまっており台所も物が壊れてはいなかった。まずはほっとし、すぐに病院へ駆けた。

検査室では勤務の T さん、駆けつけた S さんと W さんが疲労こんぱいの体でなおも片付けに励んでくれていた。ジェイメディ

カルの T さんも駆けつけてくれていた。彼は三条の自宅から 116 号線経由で 4 時間以上かかって来たそうで、小千谷経由のルート選択は正解だったようだ。

スタッフに到着が遅くなったことを詫びた後、T さんから状況を聞いた。地震発生後まもなく停電が回復し、緊急検査用機器は稼動可能とのこと。ガス分析も復旧していた。筋電図室奥のパイプスペースの排水管が壊れ水浸しとなった廊下も、4 人の懸命の排水作業でわずかに水が残る程度までしてくれていた。部屋は壁の一部数箇所にひびが入っていたが、大きな被害はなく使用可能。落ちた液晶モニターや PC も戻してくれてあり正常に動くそうだ。細菌室の保冷庫が倒れた外は、大型の保冷庫や検査機器、実験台は位置がずれた程度で済んだ。ただスチール戸棚の多くが倒れてドアのガラスが割れていた。特にスチール戸棚や使わない機械を雑然と押し込んだ倉庫は手もつけられないひどい状態。



検査室の状況を確認後、病院の対策本部へ向かった。本部は体育館にあり入院患者さんも避難しているとのこと。

体育館は比較的落ち着いていた。天井板が落下した仮設病棟の患者さんと水浸しの 1 病棟の一部の患者さんは、この体育館とリハビリ棟へ分散して避難していたが、食事とトイレが大問題とのことだった。本部は幹部が多数参集して対応を協議中で、検査科の状況と緊急検査対応可能を報告した。今後本部を外来ホールへ移動し 18 時にミーティングの予定と指示を受け戻った。



検査科に戻るとまもなくNさんが駆けつけてきた。Yさんは自宅のアパートがひどい状態で実家に避難しているとの情報で、検査室スタッフ全員の安否が確認できた。検査機器の状況を再確認し、明日からの業務再開に備えた。第一の問題は水、断水が続いて精製水の確保が厳しい。メインの生化学自動分析装置の稼動が心配である。検査システムとオーダーリングシステムは、落下したものもあったそうだが、幸いにも無事、実験台の機器も動いてズレたものの障害なく使えた。ゆれの方向が実験台の長辺方向だったようで救われた。もしゆれ方向が90度違っていたら器械の落下はもっと多かっただろう。大型の試薬用、検体用保冷庫も20、30cmもズレ動いていたが、よく倒れなかったものだ。もし倒れていたら大変な騒ぎになっていた。とにかく“もし”が現実だったら大変だったと背筋が寒くなる思いだった。

18時の対策本部のミーティングに参加

した。水とガスが来ないので給食ができない。さいがた病院からのご飯の供給と非常食で対応する様子。水は給水車が優先的に補給してくれるよう依頼したとのこと、明日は水が使えるだろうか。各部署の状況を確認し、明日の外来をオープンするする方針となった。

ミーティングの最中、ガクンと大きなゆれが襲った。余震だ。思わず身構えたがすぐに収まった。良かった。みんな各所へ確認に走った。ひび割れていた建物間のつなぎ目が崩れたところがあったが、幸い被害の拡大はなかった。

検査科に戻ると、片付けに区切りがついたスタッフが休憩して待機していた。今日できることはほぼ終わったと判断し、みんなのがんばりを慰労し帰宅するよう指示した。帰宅の路も大変だろうと想像された。

余震の心配は消えず、10時まで待機して宿舎に戻った。事務官の多くは泊り込みという。宿舎は足の踏み場もない状態、とにかく寝られるスペースを作った。水は少し貯水タンクに残っているらしく水道は出たが、貴重な水を大切に使わねばと風呂桶とヤカンと空きペットボトルに貯めた。

長い長い一日が終わろうとしていた。果たして眠れるだろうか？

そして明日から、もっともっと長い一日が始まる。



以下に、参考資料として県内技師長と関信技師長会へ発信したメール、新潟病院検査科の被害のまとめを掲載させていただきます。

横田技師長 様
山田技師長 様

中島治@新潟病院です。
いつもお世話になっております。

さて、このたびの地震についてはご心配をおかけしております。
状況について、報告しておきます。

かなり強い揺れで、当日勤務者によれば、実験台上のコンピュータや液晶モニターの一部、小型機器が落下し、実験台や保冷库、キャスター付きの大型分析機器など重量物は滑るようにズレました。転倒したものは小型保冷库やスチール戸棚など比較的軽量のものでした。破損したものとしては、血算機のチケットプリンターと比較的低い台に乗っていたプリンター1 台と幸いにも被害は軽微でした。

地震発生後、2 名のスタッフが駆けつけ 3 名で復旧に努めてくれました。

小生は柏崎を離れており、ニュースで地震発生を知りかけつけましたが、現地入りできたのは午後 4 時過ぎになってしまいました。

一番大変だったのは、配水管破断による漏水で廊下や生理の部屋の一部が水浸しになったことです。他の病院職員と協力して排水に頑張ってくれました。

さて、本日は水も自衛隊の給水活動で何とか出るようになり、生化学の自動分析も動かせました。ただ水圧が低く作れる量が少ないので、パックの精製水と併用しています。

検査機器もほぼ無事であったこと、一般電源が来ていること、オーダーリングシステム、検査システムのコンピュータが健在であったことなどから幸いにも本日中に 100%復旧できました。

以上簡単ですが、第一報として報告します。

国立病院臨床検査技師長協議会杉村会長 殿
並びに 技師長会 会員各位

中島治@新潟病院です。

地震お見舞い誠にありがとうございました。

幸い、私自身も含め検査科スタッフや病院職員の人的被害はありませんでした。

病院は建物が部分的に傷んで、復旧工事が必要なところが多数あります。くしくも今年3月から耐震強化工事を進めているところで、検査科も先月末に仮設の建物から戻ったところでした。そのおかげか、検査室、検査機器の被害は軽微で本日午後から通常通りの業務ができるようになりました。

ただ配水管の破損による水漏れがあり廊下から検査室内まで一面水浸しの憂き目にはあいました。当日の勤務者と駆けつけてくれたスタッフ皆の頑張りで、現地を離れていた私が到着したころには対応を終えていてくれました。

現在上水道の供給は止まっていますが、自衛隊の給水車による病院受水タンクへの給水がピストン輸送で行われており、病院の中は細々ながら水道の使用は可能となっています。自動分析装置の水も、水道からの分と何とか確保したパック入り精製水とで稼動可能となりました。

病院は本日からの外来は平常どおり行いましたが、予約患者様の来院半分以下のようなようです。

入院患者は一部体育館やリハビリ運動場などに避難しています。

一両日中には、元いた仮設病棟へ戻る予定です。

来週完成予定だったの病棟改修は地震の被害で工事のやり直しになってしまいました。

今後は夏休み返上(?)で、復旧に向けての作業で忙しくなりそうです。

皆様の激励に感謝いたします。

国立病院臨床検査技師長協議会----- Original Message -----

From: 杉村 有司

To: 中島 治

Sent: Tuesday, July 17, 2007 9:55 AM

Subject: お見舞い

中島 治臨床検査技師長 殿

国立病院臨床検査技師長協議会 会 長 杉 村 有 司

会務ではいつもお世話になります。

この度は突然の震災に私どもも驚いています。

まだ余震の続く中で対応に追われていることと

思いますが、持ち前の力量で頑張ってください。

早い復興をお祈り申し上げます。

国立精神・神経センター武蔵病院 臨床検査部

杉村有司

中越沖地震における危機管理について
ー検査科での被害と問題点ー

臨床検査技師長 中島 治

1. 被害の状況

(1)転倒、転落による被害

- ①超音波検査室カラープリンターの転落破損
- ②スチール戸棚の転倒によるポータブル脳波計の不具合発生
- ③スチール戸棚の転倒によるガラスの破損が4台
- ④PC2台とモニター4台の転落（異常なし）
- ⑤血算装置のチケットプリンターが転落破損

(2)排水管破断による被害

- ①筋電図検査室パイプスペースの雑排水管破断脱落により漏水（機器など障害なし）
- ②破断した排水管からの臭気による影響

(3)地震のゆれによる障害

- ①一部検査機器内部の液体があふれ一時的に障害が発生
- ②分析装置ユニットの連結部にずれ発生
- ③実験台、分析装置、大型保冷库など重量物10～20cm程度移動（実害なし）

2. 復旧の経過

- （直後） 勤務者1名が落下物の復旧と機能確認
- （電源回復後）緊急検査用機器とコンピュータシステムの正常稼働を確認
- （応援到着後）応援者ととともに漏水除去作業
- （6時間後）緊急検査に必要な精製水の確保と試薬消耗品の確認
- （2日目） 精製水の確保により全検査機器稼働状態

3. 危機管理上の問題点

- ①棚の転倒対策が未整備
- ②コンピューター類の固定が未実施
- ③軽量物の設置や高い場所への設置についての対策が未実施
- ④無停電電源装置増設の必要性（今回はよかったが）
- ⑤非常用の精製水、試薬、消耗品などの備蓄が必要（今回はよかったが）
- ⑥非常時の連絡体制やスタッフの応援体制が不十分

4. 今後の対策

- ①転倒転落防止対策の実行
- ②検査機器保護対策
- ③復旧マニュアルの整備
- ④非常時用物資の備蓄（特に精製水、発電機なども考慮）
- ⑤非常時の連絡・応援体制の訓練実施